

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20330144

研究課題名 (和文) 不安の潜在的・顕在的処理に関する認知臨床心理学的研究

研究課題名 (英文) Study of Cognitive-Clinical Psychology  
for implicit and explicit processing of Anxiety

研究代表者

岩永 誠 ( IWANAGA MAKOTO )

広島大学・大学院総合科学研究科・教授

研究者番号：40203393

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：潜在的処理, 顕在的処理, 社会不安障害, 注意の歪み, 自己注目, 安全確保行動, 視線

## 1. 研究計画の概要

不安障害者は理屈でわかっているにもかかわらず、適切に行動することができないという特徴を持つ。「理屈ではわかる」というのは、顕在レベルの処理段階を指していることから、不安障害の病理的行動は、この顕在的な処理段階だけでは説明できないことがわかる。そのため、潜在的な側面をも対象とした検討が必要となってくる。本研究では、不安障害における潜在的処理について検討し、それと顕在的処理との関係、および認知処理の特徴や不安反応との関係を調べることで、不安障害の認知情報処理上の歪みと不安表出の特徴を明らかにすることを目的としている。検討の対象として、不安障害においてもっとも罹患率の高い社会不安障害を用いた。以下の研究について、社会不安傾向の高い対象者を用いたアナログ研究を計画した。

- (1) 社会不安障害における潜在的記憶構造の解明と顕在的記憶構造との関係に関する検討
- (2) 社会不安障害の潜在的・顕在的処理が不安反応の表出モード（主観・行動・整理）との対応に関する検討
- (3) 社会不安障害の治療プロセスにおける潜在的・顕在的記憶構造の変容における検討
- (4) 社会不安障害における自己注目と注意の関係について、視線行動を用いた検討

## 2. 研究の進捗状況

社会不安障害を対象としたアナログ研究を行い、現在までに以下の研究知見を得ている。なお、潜在的記憶構造の測定には IAT (Implicit Association Test) を用い、顕在的記

憶構造の測定には質問紙を用いた。

(1) 潜在的記憶構造の解明と顕在的記憶構造との関連に関する検討

スピーチ前後の潜在的記憶構造を検討した結果、不安反応と否定的評価に強い連合が認められ、不安反応が他者に見られ、否定的評価に結びつくと言うことが潜在的に形成されていることがわかる。また、従来の質問紙により測定した顕在的連合と潜在的連合との相関はほとんど認められず、両者が独立して影響していることが示唆される。

(2) 潜在的・顕在的記憶構造と不安反応との関連

スピーチ中の不安反応を、主観・行動・生理の3つのモードで測定し、潜在的・顕在的処理との対応を検討した結果、顕在的処理が主観的な不安と関連し、潜在的処理が行動上の乱れや生理的確性と関連していることがわかった。不安の表出モードにより、対応する処理段階が異なる可能性が示唆された。

(3) 潜在的・顕在的記憶構造の変容過程に関する検討

社会不安障害に対するエクスポージャー法と認知療法の2種類の治療介入のアナログ研究を行った。介入によって顕在的連合は変容するものの、潜在的連合は変容せず、顕在的連合に遅れて潜在的連合の変容が生じる可能性が示された。このことは、社会不安障害の治療介入終了後の再発は、潜在的連合の未修正によるものであることを示唆する結果といえる。

(4) 自己注目と視線行動に関する検討

社会不安障害の特徴である安全確保行動を視線により検討し、社会不安の高いものはスピーチ中にアイコンタクトをする時間が

長く、自己注目を喚起する条件で顕著であった。これは自分の不安を相手に伝えないようにするための対処的意味を持つものと解釈できる。

### 3. 現在までの達成度

現在までの達成度は、「②おおむね順調に進展している」と評価できる。社会不安障害の潜在・顕在という認知情報処理に関する検討に加え、アイコンタクトという安全確保行動の検討も行い、その対処的意味も検討している。アイコンタクトを取ることで、対処的意図性が認知情報処理の歪みと関連している点を明らかにしようと試みている。しかし、不安障害の一つである強迫性障害における検討も合わせて行いたかったのだが、これについては十分な実施ができていない。

### 4. 今後の研究の推進方策

平成 23 年度で研究が修了するため、あと 1 年間で以下の点について検討をしたい。

(1) 潜在的・顕在的記憶構造の変容過程に関するアナログ研究において、データを追加したい。

(2) 不適切な対処である安全確保行動を視線により測定し、視線行動の意図性の検討と注意過程との関連について検討する。

以上の検討を加え、本研究の目的である不安障害における潜在的・顕在的処理の特徴解明についての検討を深めたい。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

1. Kanai Y, Sasagawa S, Chen J, Shimada H, Sakano Y, Interpretation bias for ambiguous social behavior among individuals with high and low levels of social anxiety. *Cognitive Therapy and Research*, 査読有, 34, 2010, 229-240.
2. Sasaki, S., Iwanaga, M., & Seiwa, H., Implicit and explicit associations in the fear structure of social anxiety. *Perceptual and Motor Skills*, 査読有, 110(1), 2010, 19-32.
3. 金井嘉宏・佐々木晶子・岩永誠・生和秀敏, 社会不安のサブタイプと生理的反応に対する認知の歪みの関係. *心理学研究*, 査読有, 80, 2010, 520-526.
4. 河崎千枝・高島佳奈・岩永誠, 社会的場面とその予期における対人不安者の注意処理. *行動療法研究*, 査読有, 35(3), 2009, 205-216.
5. 藤原裕弥・岩永誠, 不安における注意の処理段階に関する研究. *行動療法研究*, 査読

有, 34(2), 2008, 101-112.

[学会発表] (計 17 件)

1. 青木(佐々木)晶子・金井嘉宏・岩永誠, 対人不安の記憶構造が注意バイアスに及ぼす影響. 日本行動療法学会第 36 回大会, 2010 年 12 月 6 日, 名古屋.
2. 金井嘉宏・入戸野宏・久保賢太・青木(佐々木)晶子・岩永誠, 対人不安者の内的・外的刺激に対する注意バイアス — 事象関連電位を用いた検討 —. 日本心理学会第 74 回大会 2010 年 9 月 21 日, 大阪.
3. 佐々木晶子・岩永誠・金井嘉宏, 反すうの処理モードが抑うつに及ぼす影響. 日本行動療法学会第 35 回大会, 2009 年 10 月 13 日, 千葉.
4. 金井嘉宏・入戸野 宏・久保賢太・佐々木晶子・岩永誠, 社会不安者が生理的反応と他者表情に示す脳電位反応. 日本行動療法学会第 35 回大会, 2009 年 10 月 13 日, 千葉.
5. 佐々木晶子・岩永誠, 社会不安の記憶構造と不安反応の関連. 日本認知療法学会第 8 回大会, 2008 年 11 月 3 日, 東京.

[その他]